

令和元年9月2日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02086

研究課題名(和文)リビングヘリテージの多様性の比較研究

研究課題名(英文) A comparative study on variability of living heritage between two sites: Cebu, the Philippines and Champasak, Lao PDR

研究代表者

西村 正雄 (Nishimura, Masao)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：30298103

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、地域集団内におけるリビングヘリテージの概念の多様性を明らかにし、またその多様性を二つの地域で比較検討してみることを目的とした。フィリピン・セブ市のムスリムの人々の遺産に対する考え方と、ラオス・チャンパサクのキリスト教徒の遺産に関する調査を行った。セブの調査では、大多数のキリスト教徒とほぼ同じ遺産の考えを確認したが、キリスト教徒ほど遺産に関する競争意識は少ない様子も確認した。ラオスでも、公共の遺産に対して家族の遺産と家族の遺産について分けて考える、共通する概念をもっていることが明確となった。結果として、遺産保護考えの基礎としてのコミュニティのモラルの問題が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年宗教と関連した破壊行為などが世界的にみられる中で、本研究では、遺産保護の意識が生活の中で根ざすものか、それとも宗教的理由によるものなのか検証してみることを究極的な目的とした。このため、キリスト教徒の暮らす地域内のイスラム教徒のキリスト教関連の遺産への意識と行動、さらに仏教徒の多い地域におけるキリスト教徒の遺産に関する意識と行動を比較調査した。結果的に、それぞれの地域で人々の遺産に対する意識と行動は、宗教的違いを超えて同じようなパターンが見られることがわかった。遺産は、宗教の違いを超えて守るといった共通の意識形成と地域統合の可能性を示唆することができる点で、新しい社会的意義を示せたと考える。

研究成果の概要(英文)：The present research intended to examine: 1) a variability of the concept of heritage among the people living with heritage; 2) comparison of the variability of living heritage between two different sites. In order to examine these problems, we conducted field survey at two sites: Cebu City, the Philippines, and Champasak World Heritage area in Laos. Our research on Muslim communities in Cebu, being surrounded by many Christian heritage sites indicates that their concept and practice related to heritage are similar to those of Christians; namely they put a first priority on their family or personal heritage, and public heritage becomes secondary, although observe competitive feeling toward other heritage was not clear. In the case of Champasak, Laos, our research on the Christian communities indicates that distinction between the public and personal heritage is clear, being same as Buddhist villagers. We conclude that living heritage concept is not so related to religious aspects.

研究分野：文化人類学、遺産学、

キーワード：リビングヘリテージ フィリピン・セブ ラオス・チャンパサク 世界遺産 コミュニティモラル 社会的統合

科研費：基盤研究（C）：リビングヘリテージの多様性の比較研究（2016年 - 2018年）

研究実績の概要

早稲田大学文学学術院

西村 正雄

## 1．研究開始当初の背景

本研究は、先に行った「リビングヘリテージの比較研究」の第2段階として行った。ヨーロッパでは、リビングヘリテージに関する研究が過去10年間に増加した（例、Anheir and Isar eds. 2011）。それらは、政策上の問題として、リビングヘリテージについて述べているものが多い。世界遺産の登録機関であるユネスコは、住民の生活へ注目を向ける政治的目的を込め、単なる過去の遺物ではなく「現在の世界に生きている遺産」という意味で「リビングヘリテージ」の用語を用いてきた。しかし、所を変えて私が述べてきたように（西村 2006；2007）、この概念そのものが、異なる立場の利害関係者の間でさまざまに解釈され、混乱をきたしてきたようである。このような状況は、東南アジア、東アジア、太平洋地域でも顕著に生じている。例えば東南アジアの世界遺産に関する諸研究は、遺産地域内で日常生活を営む住民と規制をかける政府との相克について論じている（例、Miura（三浦）2004, 2011）。しかしこうした研究でも、住民の考える未来永劫とは何か（例、伝統的時間枠組みなど）、遺産の何を価値と捉えているのか、そしてそもそも何を未来に残したいのかという点が不明瞭であるために、遺産を未来に向けて保護・管理していく計画に対し、住民がどのような意味を見出すのかを見極めることはやはり困難となっている。そこで本研究では、そうした点をより明瞭にすることを目的としてきた。

本研究関連の第一段階では、ラオスとフィリピンの二地域を比較することで上記の意義がより明確になった。具体的には、文献調査とフィールドワークにより、以下の調査をした。（1）公的文書における文化遺産の定義、（2）公的に制定・保護されている遺産リストの構成、（3）公的な遺産の保護・管理方法、（4）非公式的な遺産の定義（各国の住民による定義）、（5）非公的な住民の遺産との関わり方、（6）住民が誰のために、何を真に残したいと思うものは何かである（Nishimura（西村）2014; Odajima（小田島）2014, 2015）。

ラオスでは、遺産の公的側面をまず考察した。また、遺産の非公的概念を考える上で、住民の考え方を調査した。住民には住民の考える伝統保護の強い意向があることがわかった。その意向は伝統を共有する村落共同体で共有されていたが、外国人や現地政府の唱える公的概念とは異なることがわかった（Nishimura（西村）2016; Odajima（小田島）2014, 2018 a, b）。

フィリピンのセブでは、地方政府（セブ市）が近年盛んに市立の博物館を創設し、セブの歴史的意義を強調してきた。しかし住民は、私立の博物館を家族単位で創り、家族間の競争、また公共の博物館に対する競争が確認された。つまり、競争的ヘリテージ（Competitive Heritage）の現象が顕著であることが判明した（Nishimura（西村）2017, 2018）。

## 2．研究目的

上記の先行研究から、二地域に共通する問題として、公的な遺産概念と非公的な遺産概念に乖離が見られることがわかった。そのため、その乖離の理由を明確にしていくことが重要であると考えた。次の作業仮説を設定した：（1）宗教的な観念体系が、それぞれの遺産の形成にいかに関わっているのかどうか；（2）リビングヘリテージという視点をを用いると、現在の社会 政治的、社会 経済的情勢が遺

産概念に影響を及ぼしている側面を明確にすること。

### 3. 研究方法

本研究は、基本的に調査方法は、現地における、博物館・展示室調査と遺産のある地元住民への聞き取り調査の2通りの方法をとった。博物館・展示室調査では、展示の方法、順序、強調する点のおき方に注目して調査した。聞き取り調査では、地元住民が遺産を訪れる頻度、滞在時間、時期、遺産の中で訪れる地点、また地元人々が最も大切にして、将来にわたって残したいものの調査を行った

### 4. 研究成果

本研究調査の主目的である、リビングヘリテージの多様性の比較研究に関して、次のような点が明らかとなった。

1) フィリピンに関して、イスラム教徒の人々を中心に調査を行った。先に行ったキリスト教徒の住民への調査から、セブではまず家族、個人の遺産(プライベートの遺産)が公共の遺産に優先し、公共の遺産の認識はあるものの、むしろ家族の遺産(プライベートの遺産)家族間の遺産を通して認識されている傾向が見られた(Nishimura 2018)。

さらに、各家族間の遺産に対する対抗意識(コンペティション)が見られたが(Nishimura 2018)、この特徴的な遺産概念がイスラム教徒にもみられるのかどうか今回の調査のポイントであった。イスラム教徒もキリスト教徒の住民と同じく、自己及び家族の遺産を第一に考え、公共の遺産を第二の遺産とする傾向が見られた。セブにおける公共の遺産の多くはキリスト教関連の遺産であるにもかかわらず、イスラム教徒の人々はそれらを皆で守る遺産との意識を持っているように思われた(Nishimura 2015)。しかし家族の遺産間で遺産を巡る競争(コンペティション)はあまり見られなかった。したがって、個人の遺産と公共の遺産の区別は、キリスト教徒よりも明確であるように思われた(Nishimura 2017, 2018)。

2) ラオスに関しては、キリスト教徒の村落の住民を特に対象として調査を行い、また現在までの調査で、住民が本当に守りたいと考える遺産が無形遺産と呼ばれるものであることが分かってきた。チャンパサク村落の調査、および博物館、寺院、展示室で広範な調査を行った(小田島(Odajima) 2017, 2018a)。結果的に、キリスト教徒の村落民も、他の多くの仏教徒の村落と同じく、公共の遺産と、自己・家族の遺産は明確に区別している様子が見えた。(Odajima 2018b)。無形遺産の調査については、それぞれの村で保存してきているものに多様性がある様子が見えた(Odajima 2018b)。今後無形遺産の調査とそれに続く保存の確立に注目すべきであると判明した。

以上、二つの調査を比較して、次の点が明らかとなっている: 遺産の概念は、それぞれの地域の文化によって大きな多様性が見られる; 公共の遺産を自己の遺産と同じく保護する意識は、宗教的な問題を越えて、むしろそれぞれの住民が暮らすコミュニティが培ってきたモラルの問題として考えられることがわかった。

#### <今後の課題>

次の解決すべき課題が見つかった。人々が自ら遺産保護に取り組む糸口である、自己の遺産とは何か; 文化によって、あるいは地域による遺産のとらえ方の違いの要因; 遺産の概念と保護の基盤としてのモラルとは何かの解明である。

#### <引用文献>

2011 Anheier, H. and Y. R. Isar eds., Heritage, Memory & Identity. London: Sage.

- 2004 Miura, Keiko (三浦恵子) Contested Heritage: People of Angkor. Ph.D. Thesis. London: University of London, School of Oriental and African Studies.
- 2010 Miura, Keiko (三浦恵子) “World Heritage Sites in Southeast Asia: Angkor and Beyond.” In Hitchcock, Michael, Victor T. King, and Michael Parnwell eds., Heritage Tourism in Southeast Asia. Copenhagen, S., Denmark: NIAS Press. Pp. 103-129.
- 2011 三浦恵子 『アンコール遺産と共に生きる』。東京：めこん。
- 2006 西村正雄「遺産概念の再検討」 『文化人類学研究』第7巻。Pp. 1-22。
- 2007 西村正雄(編著) 『ラオス南部：文化的景観と記憶の探求』。東京：雄山閣。
- 2014 Nishimura, Masao “Transformation of Cultural Landscape of Complex Societies in Southeast Asia: A Case Study of Cebu Central Settlement, Philippines.” Masao Nishimura ed. Human Relations and Social Developments. Quezon City, Philippines: New Day Publishers. Pp.275-308.
- 2016 Nishimura, Masao Practicing Heritage – Living Heritage in Champasak, Lao PDR. The 5<sup>th</sup> International Conference of Lao Studies. Held at Thammasat University, Bangkok, Thailand. June. 配布資料。
- 2017a Nishimura, Masao How Cebu People Think about Heritage: “Competitive” Heritage. The International Workshop on Re-appraisal of the Concept of Heritage. Held at Waseda University, Tokyo. 配布資料。
- 2017b Nishimura, Masao An Attempt to Conserve the Philippine Heritage: Preliminary Analysis of the Data of Heritage Studies in Cebu City in 2016. The First International Conference on Philippine Studies. 配布資料。
- 2015 Odajima, Rie (小田島理絵) “Culture Since 1975: The Rise of National Culture and the Resurrection of the Lan Xang Past in Post-*New-Thinking* Laos.” 『文化人類学年報』(早稲田大学大学院文学研究科文化人類学コース)、第10巻。Pp.3-11。
- 2018a 小田島理絵 「ラオス人民民主共和国における博物館：制度化の過程」 『博物館学雑誌』(全日本博物館学会)、第68号。Pp.65-92。
- 2018b Odajima, Rie(小田島理絵) “On Intangible and Tangible Heritage: Human Beings, Objects, Agency, and the Integration of Cultural Perception.” 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第64輯。Pp. 739-757.
- 2018c Odajima, Rie(小田島理絵) “The Spaces for Future: Development and Tradition in Laos.” 『文化人類学年報』(早稲田大学大学院文学研究科文化人類学コース)、第13巻。Pp.1-8。
- 2009 Winter, Tim “Destination Asia: Rethinking Material Culture. In Winter, Tim, Peggy Teo and T.C. Chang eds., Asia on Tour. London: Routledge. Pp. 52-66.

## 5. 主な発表論文等

< 研究代表者 >

[雑誌論文等] (計3件)

- 2018 Masao Nishimura Heritage in Cebu City, the Philippines: A Study of “Competitive” Heritage – Preliminary Field Report - . 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第64輯。Pp.759-779.
- 2018 西村正雄 「クリフォード・ギアーツの人類学とその後の人類学的研究」 海老澤衷編『世界遺産バリの文化戦略』。東京：勉誠出版。Pp.43-54.
- 2017 西村正雄 「レスリー・ホワイト」 岸上伸吾編著『はじめて学ぶ文化人類学』。京都：ミネルヴァ書房。Pp.69-74.

[学会発表等] (計6件)

2019 Masao Nishimura ASEAN and Tourism Development in Lao PDR. The 6th International Conference on Lao Studies. June 13-15, 2019. Cornell University (Ithaca, New York).

2018 Masao Nishimura Comment on the Present Status of Research and Conservation on the Champasak World Heritage. The 5th International Coordination Committee (ICC) for Safeguarding the Champasak World Heritage, Champasak, Lao PDR. Organized by the Ministry of Information, Culture, and Tourism of the Government of Lao PDR, and UNESCO Bangkok Office. Held at Champasak, Lao PDR. March 28-29.

2018 西村正雄 「ラオスの世界遺産の魅力を維持し続けるために」在日本ラオス大使館における招待講演。(ラオス大使館主催「ラオス世界遺産の夕べ」, 8月1日。

2017 Masao Nishimura Cebu People's Perception of Heritage: "Competitive" Heritage seen in Downtown Cebu City. The International Workshop on Re-appraisal of the Concept of Heritage. Waseda University, Tokyo. March 30-April 1.

2017 Masao Nishimura An Attempt to Conserve the Philippine Heritage: Preliminary Analysis of the Data of Heritage Studies in Cebu City in 2016. The First International Conference on Philippine Studies. Aklan State University, Aklan, Mindoro, the Philippines. May 9-11.

2016 Masao Nishimura Practicing Heritage – Living Heritage in Champasak, Lao PDR. The 5th International Conference of Lao Studies. Thammasat University, Bangkok, Thailand. July 6-9.

< 研究協力者の成果 - 小田島理絵 >

[雑誌論文等] (計 4 件)

2018 小田島理絵 「ラオス人民民主共和国における博物館：制度化の過程」『博物館学雑誌』(全日本博物館学会)、第 68 号。Pp.65-92。

2018 Rie Odajima "On Intangible and Tangible Heritage: Human Beings, Objects, Agency, and the Integration of Cultural Perception." 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第 64 輯。Pp. 739-757.

2018 Rie Odajima "The Spaces for Future: Development and Tradition in Laos." 『文化人類学年報』(早稲田大学大学院文学研究科文化人類学コース)、第 13 巻。 Pp.1-8。

[学会発表等] (計 6 件)

2019 Rie Odajima Curating Intangible Culture in Lao PDR. The 6th International Conference on Lao Studies. June 13-15, 2019. Cornell University (Ithaca, New York).

2018 Rie Odajima Intangible Cultural Heritage of Champasak. The 5th International Coordination Committee (ICC) for Safeguarding the Champasak World Heritage, Champasak, Lao PDR. Organized by the Ministry of Information, Culture, and Tourism of the Government of Lao PDR, and UNESCO Bangkok Office. Held at Champasak, Lao PDR. March 28-29. Champasak, Lao PDR.

2018 Rie Odajima "Culture as Tangible and Intangible Heritage: The Reconfiguration of Cultural Concepts and the Politics of Cultural Heritage Protection in Lao PDR," Annual Meeting of American Anthropological Association, Nov. 14-18, 2018 (Presentation at Poster Session). San Jose, California.

2018 Rie Odajima "The Spaces for Future: Development and Tradition in Laos." 『文化人類学年報』(早稲田大学大学院文学研究科文化人類学コース)、第 13 巻。 Pp. 1-8.

2017 Rie Odajima The Sense of Heritage in Lao PDR. The International Workshop on Re-appraisal of

the Concept of Heritage. Waseda University, Tokyo. March 30-April 1.

2016 Rie Odajima Culture and Heritage: Tangibility, Intangibility, Heritage Management. The 4th International Coordination Committee (ICC) for Safeguarding the Champasak World Heritage, Champasak, Lao PDR. Organized by the Ministry of Information, Culture, and Tourism of the Government of Lao PDR, and UNESCO Bangkok Office. Held at Champasak, Lao PDR. November 15. Champasak, Lao PDR.

2016 Rie Odajima The Lao Agrarian Economy in the Post-*New-Thinking* Period. The 5th International Conference of Lao Studies. Thammasat University, Bangkok, Thailand. July 6-9.

< 研究協力者の成果 - Jocelyn Gerra >

[学会発表等](計 1 件)

2017 Jocely Gerra An Attempt to Make Cebu People be Aware of Heritage and to Conserve Local Culture in Cebu, the Philippines. The International Workshop on Re-appraisal of the Concept of Heritage. Waseda University, Tokyo. March 30-April 1.

< 研究協力者の成果 - Phakhanxay Shikhanxay >

[学会発表等](計 1 件)

2017 Phakhanxay Shikhanxay Heritage Management: Lao Government Policy concerning Tangible and Intangible Heritage. The International Workshop on Re-appraisal of the Concept of Heritage. Waseda University, Tokyo. March 30-April 1.

## 6. 研究組織

### ( 1 ) 研究代表者

西村 正雄(NISHIMURA, Masao)

早稲田大学・大学院文学研究科・教授。研究者番号：30298103

### ( 2 ) 研究協力者

小田島 理絵(ODAJIMA, Rie) (早稲田大学・大学院文学研究科・非常勤講師)

シーカンサイ、パーカンサイ(SHIKHANXAY, Phakhanxay) ( ラオス政府情報文化観光省、遺産部副主任 )

ヘラ、ジョセリン(GERRA, Jocelyn)(フィリピン、セブ市、サンカルロス大学人類学部准教授、ラモン・アボイティス・ファウンデーション文化部長)